

実物分析と貨幣的分析

平 瀬 巳之吉

The Real and the Monetary a Analysis

Minokichi Hirase

本年度の研究費は当初、旅費交通費に充当するつもりで申請したものである。それはここ数年来、研究課題の整理と原稿作成のため、夏期休暇を利用して清涼地に避暑することを慣行としていたからであった。ところが、本年度はどういう風の吹き回しか、図らずも夏期休暇直前、仕事の原稿作成が完了してしまった。そこで、これを『実物分析と貨幣的分析』と表題して出版社に手渡した。その校正刷もすでに53年1月に降りてきて初校も校閲済みとなった。念のために新著の編別構成を摘記すれば以下の通りである。

前 編 実物分析の定着

後 編 実物分析と貨幣的分析

補遺編 平均分析のアポリア

付録Ⅰ 平均分析の模型

付録Ⅱ 平均分析の思想的フレーム・ワーク

そういうわけで、本年度研究テーマは遠からず著書となって公刊されるであろうと思う。ただ、それにしても折角下付された研究費をそのまま返却するのは能のない話で、なんとか合理的にして生産的な用途はないものかと考えているうちに、これまた思いがけず、

Johann Carl Rodbestus の全集本が格安で古書に出ていることがわかった。全6巻で価格は11万5千円だが、そのうちの3巻がちょうど6万円で、支給された研究費とひとしいので、これを購入した。当初申請の研究費支途とは多少違っているが、古典的著作ではあり、かつは研究テーマとも照応しているので、思いきって購入したわけである。ただ、そうすると、あと3巻5万5千円ぶんが残ることになる。来年度、私は骨休めの意味もあって個人研究費を申請しない方針にきめたから、残る3巻（5万5千円）をなんらかの方法で社会科学研究所の蔵書の形で購入確保したいと思っている。そうでないと折角の前3巻が端数となってしまう、これはいかにも惜しいと考えられるからである。